

大会試合細則 2022/2/13

1. 試合はトーナメント方式とする。
出場選手数 1チーム20名以内とし、学童、中学の男女とする。
2. イニング
 - (a) 中学部7回、学童部6回とし、以後はタイブレーク方式を採用する。
 - (b) 学童B、オレンジボールは5回とし、以後はタイブレーク方式を採用する。
 - (c) オレンジボールは7点が入った時点で攻守交代とする。
3. 試合時間
 - (a) 中学部、学童部は試合開始時刻から1時間30分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - (b) 学童Bは試合開始時刻から1時間20分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - (c) オレンジボールは、試合開始時刻から1時間10分を過ぎたら新しいイニングに入らない。
 - (d) いずれの場合も、時間を優先する。
4. タイブレーク方式
中学7回、学童6回（学童B5回、オレンジボール5回）終了時、または試合制限時間を過ぎて同点の場合は特別延長戦を最大2イニング行なうこととし、勝敗が決しない場合は、抽選とする。
（無死満塁、継続打順とする←葛飾区ルール）
5. コールドゲーム
 - (a) 中学部、学童部は、3回15点、4回10点、5回以降7点以上の差となったときは、試合終了とする。
学童Bにおいては、2回15点、3回10点、4回7点差となった場合試合終了とする。
ただし、オレンジボールは採用しない。
 - (b) 暗黒、雨天等にて試合続行が不可能と審判員が判断したときは試合を終了する。
4回（学童B・オレンジボール3回）を終了し得点差のあるときは正式試合、同点の場合は再試合とする。
6. 準決勝及び決勝戦
 - (a) 中学部7回2時間、学童部は6回1時間50分とし、以後はタイブレーク方式を採用する。
 - (b) 学童B、オレンジボールは、5回1時間30分とし、以後はタイブレーク方式を採用する。
7. 学童Bの競技場は、投手板から本塁14メートル、塁間21メートルとする。
8. 試合球 学童部J号、中学部M号とし各チーム負担とする。（オレンジボール大会は連盟負担とする）
（試合球は、ナガセケンコー(株)製ケンコーボール各号とする。）
9. 投球制限 学童部（学童B、オレンジボールともに）1人の投手は1日70球以内を投球することができる。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。なお、ポークにも関わらず投球したものは、投球数とする。中学部は100球とする。
10. 守備交代した投手は投球制限に達していない場合は、再び投手に戻ることができる。
11. ポークは1回目より適用し、宣告する。（オレンジボールは採用しない）
12. ベンチは、組合せ番号の若い方を1塁側とし、先攻、後攻は試合前のジャンケンにより決定する。
13. 抗議権による抗議は、監督及び当該プレイヤーのみとする。
14. 試合前、チームは5分間を限度にシートノックを行うことができる。ただし、進行状況によっては、審判員の指示に従うものとする。
15. 用具
 - (a) 金属・ハイコンバット（複合）は、J.S.B. B公認マークの入ったものを使用すること。
 - (b) 打者、走者、次打者、ベースコーチは、SGマーク、J.S.B. B公認マークの入った両側にイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。
 - (c) 捕手は、J.S.B. B公認マークのついたマスク（スロートガード付）、レガーズ、プロテクター、SGマークのついた捕手用ヘルメットを装着すること。（ファルカップを装着することが望ましい）
 - (d) ベースは固定とする。（オレンジボールも固定とする）
 - (e) 学童は、金属製金具のついたスパイクの使用を禁止する。
16. 場外に打ち出された試合球については、1塁側、3塁側は各ベンチ、ネット付近は攻撃側が速やかに取りに行き球審に渡すこと。（なお、草や垣根等は父兄が取りに行ってください）
17. チームは、スポーツ安全保険に必ず加入すること。
18. 上記以外は、当該年度全日本公認野球規則、競技者必携により行い、グラウンドルールについては試合前担当審判員より説明する。